

AKAN MAP



■発行元／釧路市 ■監修／一般社団法人 阿寒アイヌコンサルン ■イラスト制作者／井上 綾子
■発行年月／令和7年3月

このパンフレットは、国のアイヌ政策推進交付金を活用し、釧路市の委託により制作しています。

※掲載のアイヌ語は阿寒湖畔のアイヌに伝わる表記となります。地域により異なる場合がございます。

ふれよう！

阿寒湖

アイヌ文化 Booklet

vol.3



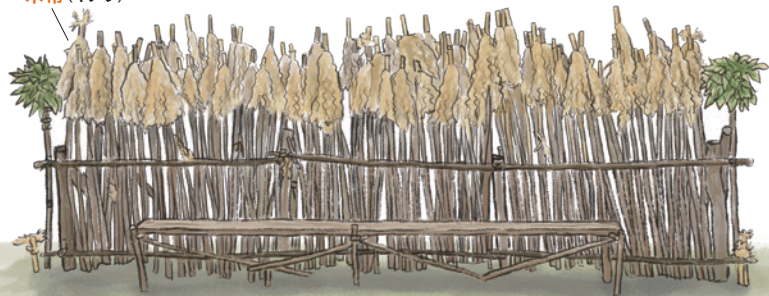
阿寒湖原産ヒメマス祭 ～カパチェプノミ～

『阿寒湖原産ヒメマス祭～カパチェプノミ～』は

ヒメマスが獲れ始める初夏に行われます。

ヒメマスが阿寒湖原産であることを人々に認識してもらうことを目的とし、阿寒湖の自然のあらゆる神々に感謝する祈りの儀式(カムイノミ)を行います。

木幣(イナウ)



アイヌの祭具 イナウ

ヤナギやミズキの木を用い、小刀で削りかけを作り、房のようにしたもの。自然のいろいろな神(カムイ)への捧げものとして、ヌササンに立てられます。その中でも主要なイナウには作った人の家紋(イトクバ)が刻まれます。

祭壇(ヌササン)



行器(シントコ)

儀式に使われる酒器

お酒はカムイノミには欠かせないので、アイヌ語で「トノト」といいます。また、カムイノミで捧げられるトノトを入れておく行器(ほかい)を「シントコ」といい、そのお酒を注ぐ椀を「トゥキ」といいます。儀式では、捧酒箸(イクパスイ)を使って参加者と共に神々とお酒を分け合います。酒器は和人との交易で手に入れたもので、普段は宝物として大切に飾られています。



アイヌの拝礼 『オンカムイ』

アイヌ男性の拝礼所作を「オンカムイ」といいます。神々への感謝を伝えるもので、儀式のほかに奉納の踊りの中でも行われます。

ヒメマスの生態

最大50cmほどまで成長するサケ目サケ科の淡水魚。阿寒湖に生息する固有種。日本では阿寒湖が原産で、支笏湖や山梨県の湖に移植放流された。アイヌ語では「薄い魚」を意味する『カパチェプ』と呼ばれる。



阿寒湖原産ヒメマス祭～カパチェプノミ～

■開催時期／例年7月第1土曜日(開催予定)

■開催場所／阿寒湖岸駐車場内特設会場



※カムイノミの最中は、カムイの通り道であるヌササンの前を横切ったり、裏に回り込むことをしてはいけません。また文様のついたゴザ(チタラベ)を踏んではいけません。

ヒメマスは阿寒湖漁業協同組合で販売しています

お問い合わせ

阿寒湖漁業協同組合

〒085-0467 北海道釧路市阿寒町阿寒湖温泉2丁目7番2号
TEL.0154-67-2750 FAX.0154-67-2830
<https://www.akan-gyokyo.com/>



エカシ・フチ

(尊敬される年長者／祖父・祖母)

儀式やアイヌ語等の文化に詳しく技術力が高くものづくりに長けているなど、知識が豊富で尊敬できるアイヌの男性を「エカシ」、女性を「フチ」と呼び、尊敬の念を表します。

A エキムネクワ

(杖)
山に入る時に
使う杖。

B コンチ

(頭巾)
野山での狩猟
に出かける際の
防寒着。

C タンバクオ

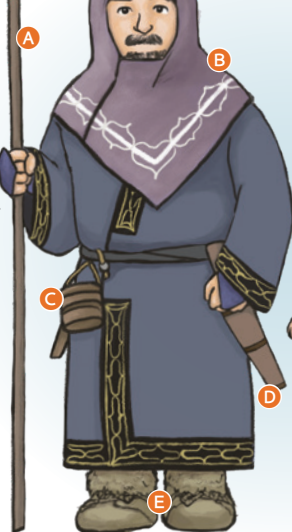
(煙草入れ)
タバコや喫煙
用具を収納し、
腰に結ぶのが
一般的。

D タシロ

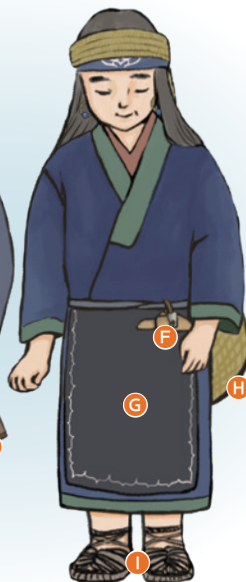
(山刀)
山猟の時にか
ならず持ち歩く
利器。

E チェブケリ

(鮭皮の靴)
風や水の侵入を
防ぐ鮭皮を用い
た丈夫な靴。



エカシ
(尊敬される男性年長者)



フチ
(尊敬される女性年長者)

F メノコマキリ

(女性用の小刀)
山菜などを採り
に行く時や、護
身用として装備
している。

G マエタレ

(前掛け)
女性が脱糞な
どの時に着用
する作業着。

H サラニブ

(編み袋)
樹皮や植物の
茎で編んで作り、
採取した山菜な
どを入れる袋。

I シトゥケリ

(ブドウの靴)
ブドウの蔓を編
んで作る夏用
の靴。

アイヌ文化の 衣・食

木のカムイから樹皮を いただいて作る衣服『アットウシ』

「アットウシ」はアイヌの伝統的な樹皮衣で、オヒョウなどの木の皮を使い、長い時間をかけて作られます。文様がないもの、少ない物は日常着、儀式の際には魔物(ウエンカムイ)が入り込まないように裾や袖口に文様が刺繍されたものを着ます。



■アットウシができるまで



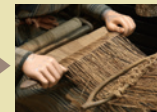
水分を多く含む春先に樹皮をはぐ。樹皮をやわらかくするために温泉に浸ける。



内皮をきれいにし、何層にもなっている内皮を薄くはがす。



内皮を一定の細さに裂き、糸を燃らす。

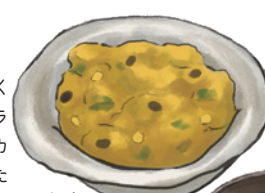


糸を織って生地にする。1、2年寝かせ、なじませてから仕立てる。

自然の恵みを 美味しくいただく

アイヌは季節の食べ物をうまく保存し、活用していました。「ラタシケ」は干して保存したカボチャや豆などを混ぜて煮た料理です。「シト」はキビや米を原材料に作られた団子のことです。「サヨ」は水分の多いおかゆで、生の魚卵(チボロ)を入れて食べることもあります。

アイヌ料理の一部を紹介



ラタシケ
(混ぜ合わさったもの)



シト(団子)



サヨ(おかゆ)

男系・女系で受け継ぐ文化

父から息子へは家紋(イトクバ)、母から娘へは腰帯(ポンクツ)など、家庭や集落の中で、アイヌは男と女でそれぞれの文化を受け継いできました。しかし同化政策※1などによって、文化の伝承が途絶えてしまったアイヌも少なくありません。

※1. 同化政策…明治時代頃に行われたアイヌ文化を制限し、アイヌを日本国民に同化させることを目的とした政策。

アイヌ文様

アイヌ文様は「渦巻紋(モレウノカ)」や「括弧紋(アイウシノカ)」などを
組み合わせたもので、地域や家庭によって特徴があります。
アイヌ文様はアイヌの大切な財産であり、親から子へと伝承されていましたが、
伝承が途絶え、先祖代々の文様がわからなくなってしまったアイヌもいます。

阿寒湖にある『阿寒アイヌコンサルン』では、文様をはじめ
アイヌ文化全般を正しく使うための取り組みを実施しています。

基本的な 文様



シッケウヌ モレウ
(角うず巻き)



アイ ウシ
(棘を持つ)



アイ ウシ モレウ
(トゲうず巻き)



ウタサ
(交わる)



モレウ
(うず巻き)



シク
(目・星)



ブンカラ
(植物の蔓)



アイヌ文様などアイヌ文化に関するご相談は

一般社団法人 阿寒アイヌコンサルン

〒085-0467

北海道釧路市阿寒湖温泉4丁目8番3号阿寒アイヌクラフトセンター1F

TEL.0154-65-8973 FAX.0154-65-8985 <https://a-ainucon.com/>



お問い合わせ

阿寒アイヌクラフトセンター ハリキキ

アイヌの工芸技術を次の世代に繋いでいくための施設。

施設の愛称である ハリキキ は、

アイヌ語でよく頑張る、努力する という意味を持ちます。

ハリキキ では「アイヌ工芸等担い手育成事業」による

研修の様子を見学することができます。



アイヌ工芸等担い手育成事業

将来の阿寒湖アイヌコタンを支えていく担い手
を育てるため、阿寒湖アイヌコタンの工芸家た
ちが、未来の担い手たちに対してアイヌ文化に
おける伝統工芸である木彫り、刺繍、織物などの
技術指導を行います。ハリキキでは、未来の担い
手たちが日々技術の研鑽に励んでいます。

アイヌの音楽

自然と共に生きてきたアイヌの人々は、季節の情景を歌や踊りにして楽しみます。基本的に手拍子と声で歌い踊り、気心の知れた人同士で自分のその時の気持ちを歌うこともあります。儀式に欠かせないお酒(トノト)を作ることは伝統的に女性の仕事とされ、濾す際には「トノトソロバ」という酒濾しの歌を歌います。



トノトソロバ(歌詞)

トノト ソロバ シラリ シコヌンバ
～トノト メノコ シラリ カイサム
ア ホ ホイヨ
～イチャリ コテレケレ

トノトを濾す際に歌われ、その作業が終わるとザル(イチャリ)の神様に楽しい気分になってもらうことで美味しいトノトになるよう、感謝と願いを込めて踊ります。

音楽・古式舞踊などのアイヌの文化を肌で体感するなら

阿寒湖アイヌシアター「イコロ」

〒085-0467 北海道釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目7番84号
TEL.0154-67-2727
<https://www.akanainu.jp/about/ikoro>



アイヌの舞踊

カパチェブノミなどの儀式やお祝いの場などでは集ったみんなで踊ります。伝承されてきた踊り(リムセ)には、男性が向き合って刀を交差し合いながら踊る「剣の舞(エムシリムセ)」などがあります。自然を見つめていた中から生まれたものや、交易で手に入れたものを使うなど様々な踊りがあります。

エカシが踊る特別な踊り『タブカラ』

エカシの威厳を示すために踊る舞踊。エカシが1人またはフチと数人で踊ることもある特別な踊りで、唸るような独特の声をういます。人によって激しく踊る人も静かに踊る人もいます。



魔除けのお祓い『タフサ』

柳の木に笹と松葉を箒状に付けたもの。タフサを空や床に向かって魔払いする踊りがあります。「阿寒アイヌシアターイコロ」での阿寒ユーカラ「ロストカムイ」の最後では、男性がタフサを持って登場します。

阿寒湖アイヌシアターイコロ 2025～26年度 公演スケジュール

阿寒湖アイヌ文化の発信拠点



	2025.4/27～10/31	2025.11/1～2026.4/25
11:00～11:30	古式舞踊	—
13:30～14:00	古式舞踊	—
15:00～15:30	満月のリムセ	満月のリムセ
20:00～20:30	古式舞踊	古式舞踊
21:00～21:30	ロストカムイ	ロストカムイ

お問い合わせ

アイヌに関わる 動物

自然と深く関わって生きてきたアイヌの人々は、森羅万象すべてのモノと深く交わり、尊敬の念を抱かなければ生活に不自由すると考え、

自然を大切にすることを受け継いできました。

アイヌの人々は、自然や動植物などをカムイと呼び、その神話(ユーカラ)は今の世代まで語り継がれています。



オンルブシカムイ(オオカミ)

狩りをする神と呼ばれ、自らが獲った獲物を人間に分け与えたり道案内をしてくれたお話があります。『阿寒湖アイヌシアターイコロ』の演目のタイトルである『ロストカムイ』とは、絶滅を余儀なくされたオンルブシカムイのことを表しています。

チロンヌブ(キタキツネ)

アイヌの人々にとって身近な動物のひとつであり、いろいろなお話があります。『阿寒湖アイヌシアターイコロ』の『満月のリムセ』は、キタキツネのカムイとアイヌの関わり方を表した演目です。



チャクチャクカムイ(ミソサザイ)

小さな小鳥がその知恵と勇気で強大なクマに立ち向かい、森の鳥たちやサマイクルの神と力を合わせて戦うユーカラの主人公。絵本としても出版され、人形劇でも上演されました。

ちっちゃいカムイとゆっくりカムイ

絵・工房太朗
文・くすのき燕 阿寒湖温泉アイヌ文化推進実行委員会
山本多助さんの『カムイ・ユーカラ アイヌラックル伝』の中の『ミソサザイの神が語った話』が原作。小鳥のミソサザイ(ちっちゃいカムイ)とサマイクルカムイ(ゆっくりカムイ)が凶暴なクマに立ちむかいます。



阿寒湖アイヌコタン

阿寒湖温泉地区は、かつてアイヌの人々が狩場や樹皮の

加工のために集まる場所でした。

現在のアイヌコタンは美幌、釧路、屈斜路、旭川などからアイヌの人々が集まり、生活のためにお土産を作り売る場所として発展しました。

阿寒湖では各地の伝統文化が交わり阿寒湖独自の文化を作ってきました。



阿寒湖アイヌコタン
「創り手の街」阿寒湖温泉
WEB サイト



前田 光子
Mitsuko Maeda

阿寒のハボ

『阿寒湖畔一帯の森を馬の牧場を造成する目的で森林の伐採を始めた阿寒前田一歩園の初代園主前田正名氏であったが、途中で「伐る山から見る山へ」とその美しい森林を伐採から保護に転じた前田一歩園。その3代目園主が前田光子氏です。豊かな大自然を永遠に守ろうと、全財産を寄付して昭和58年に前田一歩園財団を設立しました。厳しい生活をしてきた人も多かった阿寒湖のアイヌの人々に心を痛め、昭和35年に無償で店舗や住宅を建てるための土地を提供し、そこで民芸品を作り、販売することで生計を立てるよう支援しました。その優しさ感謝し、阿寒湖畔のアイヌの人々は光子氏を「ハボ(お母さん)」と呼び慕ったのです。』

阿寒湖アイヌコタン MAP ▶